

静

中

動



筆者プロフィール
かとりきんすい ● 1947年静岡県出身。駒沢大学 国文科、京都造形芸術大学 日本画科を卒業。現在は国際墨画会会長とスペイン国立ブラド美術館財団会員を務め、世界各国に水墨画を広めていく活動をしている。スイスのチューリッヒ赤十字社、オーストラリアのゴールドコースト市やメルボルン市、ニューヨークのストニーブルック大学やジャパクラブ、中国の西冷印社など、さまざまな場所に作品が収蔵されている。

現在東京に本部を置き、アジアからヨーロッパ、オーストラリア、アフリカに支部展開する水墨画の会の会長をしています。

よく皆様に何十年も水墨画をしてきたように思われますが、私が水墨画の世界に入ったのは四十代になってからのことでした。二十六才で東京世田谷の旧家といわれていた家の長男に嫁ぎ、義母からの「跡取はオトコでなければ駄目よ」の言葉に流産をくり返しながらやっとの思いで男の子を出産した時にはすでに三十六才でした。女は家に居るものという風潮の家での専業主婦でしたから、やがてストレスが溜まり、胃痛、動悸と体調が崩れ、一人言の多い状態となり医師から自律神経失調症と診断されてしまいました。自分では気力で耐えていても体はそれには耐えられないのですね。

神的に病んだ母親より、駄目でも元氣な母親の方が幸福ではないかという考えに至り、末の子が小学校上級生になった頃から習い事を理由に外出し、気分転換をすることにしたのです。幼少から習い事は好きで、結婚前はフラワーデザインを学び講師もしていました。外出することで親に文句を言われても無視し色々な事をしましたが、女子高時代の先輩に誘われて始めたのが水墨画。それは何よりも楽しく刺激的でした。数年国内で学んだ後、思うところあって先輩と共に台湾に留学していた先生に師事し直し、水墨画、書道、篆刻(てんこく)を学びました。その師に、ある公募展で私を受賞した時「遅く始めた水墨画だから花開くことは無いけれど頑張ります」と言つと、「いや絵は年数では無い。香取さんの絵は良い。今は何かよくわからないけれどいつか花が開く気がする」とお言葉をいただきました。師は中国南京大学の教授でもあったので度々南京を訪れてい

ましたが、一九九九年同地で突然の病で逝去されてしまい教室は閉室となりました。その時共に学んでいた仲間が私に習いたいということになり、五十二才で今の会を発足させたのですが、私に発足の決心をさせたのはあの時の師の言葉でした。絵だけでは無く、人生も年数で判断してはいけないと。もうこの齡だからでは無く、まだこの齡だからと考えよう。

あれから十年。多くの方々のご協力でも順調に大きくなり、オーストラリア等国内外に教室も増えました。日本との交流年行事など海外からの要請で、今までリトアニア、アイルランド等六ヶ国や、会主催でメルボルンの世界文化遺産での展覧会を行い、本年は中国の国立美術館と東京の国立新美術館で第九回展を開催します。今私は生徒を含め多くの方との出会いを楽しみ、自分なりの夢に向かって今までの人生で一番充実した日々を過ごしていると思っています。平均寿命を考えればまだ時間はたっぷりありますが逆もあります。命は天からの授かりもの。その日が来るまで頑張れば悔い無しです。これからの人生を有意義に送るための自分なりの人生を考えることは大切だと思います。だってたった一度の人生ですもの。

『人生はこれから』

国際墨画会会長 香取 琴水